



# からくり儀右衛門展

平成 25 年 11 月 30 日  
～平成 26 年 1 月 16 日

前回の展示では、国内外に貢献する久留米の「ものづくり」の礎となった先人たちをご紹介しました。なかでも江戸時代末期から明治時代初期にかけて大活躍し、わが国の電気機械工業の基礎を築いた「からくり儀右衛門」こと田中久重はその代表格といえます。どのような人物だったのでしょうか。

## 久重の生涯

### ◆久留米時代

からくり儀右衛門こと田中久重は、江戸時代も終わりに近い 18 世紀末、久留米城下の通町十丁目に生まれました。幼い頃から発明に夢中となり、五穀神社のお祭りで上演した「からくり人形の屋台」が評判を呼びました。

### ◆大坂・京都時代

からくり師として、関西地方でのロングラン公演が大成功をおさめると、大坂・京都で様々な機械の発明と製造販売を手がけます。この間、無尽灯や和時計の最高傑作といわれる万年時計を製作しました。

### ◆佐賀・久留米時代

50 歳を過ぎて西洋の科学技術を学び、佐賀藩と久留米藩に招かれます。そこでは、蒸気車や蒸気船の模型製作、ボイラー、西洋式大砲・小銃などの製造に大活躍したのです。

### ◆東京時代

明治維新後は、文明開化の東京に進出。83 歳で亡くなるまで、電信機や電気機械の製作に取り組みました。彼の工場は、のちに東芝をはじめとする現代企業の源流となりました。



晩年の久重（『田中近江大掾』より）

## 久重の性格と生き方

天才的な技術者であったにもかかわらず、大変温和な人柄でした。気分転換のため戸外に出ると、「ぎえもんさんが来た！」と近所の子供たちがたくさん群がったほど人気がありました。子供たちと戯れる姿は、一見ほとんどあほうのようだったといえます。近所の女性たちの仲間に入って、楽しげに談笑することもたびたびあったようです。

一方で、普段は無駄なことをしゃべらない無口な人物でした。しかも、一度思い立ったことは曲げず、決して途中で投げ出さない。我慢強く、一心不乱に物事に取り組む。一見頑固な性格にも見えますが、間違っていたことに気づけば、ひるがえってその説を受け入れるという柔軟性を持っていたそうです。

彼の人生哲学は、次の言葉にも表れています。

「人間が一度思い描いたアイデアは、成就しないことはない。例えば糸のもつれを解くようなもので、注意深く物事に打ち込めば、どんなもつれも解けぬことはない。それが解けないのは、打ち込み方が足りないのである。」

## 久重をめぐる主要人物関係図

